

様式第1号 スーパーバイザーの自己チェックシート

<表1の記入方法>

■表1は認定社会福祉士になるまでに必要な経験と、それらを自己評価するチェック欄で構成されています。チェック項目は、ソーシャルワークのプロセスとミクロ、メゾ（組織）、メゾ（地域）、マクロのレベルで構成されています。自己評価の基準は次のとおりです。社会福祉士としての専門的な価値、知識、技術にもとづいて行っているかを自己評価します。

4：業務として行っており専門職として常に適切にできている

3：業務として行っており専門職として概ね適切にできている

2：業務として行っているが専門職としてあまり適切にできていない

1：業務として行っているが専門職として適切にできていない

0：業務として行っていない

■チェック項目ごとに、評価をしてください。

■「評価の理由等」はミクロ、メゾ（組織）、メゾ（地域）、マクロごとに記入してください。なお、マクロについても、ソーシャルワークのプロセスの中で行われます。

■「評価の理由等」には、実践においてどの程度専門職としての価値や知識、技術にもとづいて対応できているかを簡潔に記入します。

■「スーパービジョン前」の欄が、事前面談の前にスーパーバイザー自身で記入する欄です。「スーパービジョン後」の欄は、スーパービジョン契約（1年間で6回以上の定期的かつ継続的实施）の終了にあたって、スーパーバイザー自身で記入する欄です。

■認定社会福祉士を取得する前の者は網掛けのない項目まで、認定社会福祉士を取得した後の者はすべての項目について、自己評価します。

<表2の記入方法>

■表2の上の表は、事前面談の前に表1の結果をふまえてスーパーバイザー自身の業務と照らし合わせながら、スーパーバイザー自身がスーパービジョンを受けたい「テーマ」と理由を記入します。

■表2の下表は、事前面談によるスーパーバイザーとの話し合いをふまえて、決定したスーパービジョンの「テーマ」と理由を記入します。

<表3の記入方法>

■スーパーバイザーとの事前面談を通して気づいたことを記入する欄です。

<表4の記入方法>

■スーパービジョン契約（1年間で6回以上の定期的かつ継続的实施）の終了にあたって、自己評価を記入する欄です。

表1 チェック項目表

スーパーバイザー氏名

社会福祉士登録番号

4：常に適切にできている 3：概ね適切にできている 2：あまり適切にできていない 1：適切にできていない 0：行っていない

チェック項目	スーパービジョン前 (西暦 年 月 日)		スーパービジョン後 (西暦 年 月 日)	
	評価	評価の理由等	評価	評価の理由等
1 ソーシャルワークの開始				
ミクロ	(1-1-1) 相談受付			
	(1-1-2) インテーク面接			
	(1-1-3) スクリーニングのための情報収集			
	(1-1-4) 記録作成			
	(1-1-5) 受理・判定・入所に係る会議等での介入方針の決定			
	(1-1-6) 契約			
	(1-1-7) 相談者のニーズとワーカビリティに応じた他機関・他部門へのリファー			
メゾ (組織)	(2-1-1) 組織や事業に関わる相談や依頼の受付			
	(2-1-2) 情報収集			
	(2-1-3) 会議等での方針決定への関与			
	(2-1-4) 定款や契約書等の作成あるいは変更への関与			

メゾ (地域)	(3-1-1) 相談や依頼の受付				
	(3-1-2) スクリーニングのための情報収集				
	(3-1-3) 会議等での地域福祉活動・事業の方針の決定				
	(3-1-4) 地域福祉活動・事業についての合意形成				
	(3-1-5) 地域福祉活動・事業についての契約				

2 ソーシャルワークのアセスメント

ミクロ	(1-2-1) 理論・モデルに基づくアセスメント				
メゾ (組織)	(2-2-1) 理論・モデルに基づく組織のアセスメント				
メゾ (地域)	(3-2-1) 理論・モデルに基づく地域のアセスメント				

以下の理論やモデル、アセスメント方法等を参考にして自己評価を行ってください。

理論・モデルの例) 生物・心理・社会的モデル、生態学的モデル、システム理論

組織のアセスメントの例) 所属組織、所属組織のある地域、および関係する組織・機関について

地域のアセスメントの例) 参与観察、ヒアリング、フォーカスグループインタビュー、社会調査等

3 ソーシャルワークの計画立案

ミクロ	(1-3-1) アセスメントに基づく目標設定			
	(1-3-2) アセスメントに基づく計画立案			
メゾ (組織)	(2-3-1) アセスメントに基づく目標設定			
	(2-3-2) アセスメントに基づく取り組みの企画（計画）			
メゾ (地域)	(3-3-1) アセスメントに基づく目標設定			
	(3-3-2) アセスメントに基づく地域福祉活動・事業の計画立案			

「ミクロ」については、以下の介入方法を参考にして、自己評価を行ってください。

(ア) 社会サービス^{注1}の活用支援^{注2}

注1 保健、医療、福祉、教育、司法、就労支援などフォーマルな社会資源

注2 仲介、調整、調停、提供、ケアマネジメントなど

(イ) 理論・モデル・アプローチ^{注3}に基づく心理的サポート、認知および行動変容にむけての支援

注3 例) 行動（学習）理論、認知理論、認知行動理論、システム理論、心理社会的アプローチ、機能的アプローチ、問題解決アプローチ、クライエント（パーソン）・センタード・アプローチ、課題中心アプローチ、危機介入モデルなど

(ウ) グループを活用した援助（グループワーク、自助グループなど）

(エ) 家族支援（心理的サポート、レスパイトサービス、家族心理教育、家族療法など）

(オ) ソーシャルサポートネットワーク^{注4}の構築

注4 例) インフォーマルな社会資源の開発・調整（近隣住民・友人・大家・ボランティア・職場・学校・その他の関係者や団体への説明・協力依頼・支援）、施設・機関や他の専門職との連携・協働

(カ) ケース・アドボカシー（利用者の代弁・権利擁護）

(キ) 倫理的ジレンマへの対応

「メゾ（組織）」については、以下の取組方法を参考にして、自己評価を行ってください。

- (ア) 費用対効果を踏まえた事業計画
- (イ) 上記の事業に必要な職員の体制づくり（採用・役割分担）
- (ウ) 法令遵守の取り組み
- (エ) サービスの質の向上や業務効率向上のための取り組み
- (オ) 利用者の安全対策（事故、感染症、災害時等）および緊急時の対応の仕組みの構築
- (カ) 実習生や新人職員への助言・指導（管理・教育・支持）および OJT
- (キ) 職員が自己研鑽に取り組める環境整備
- (ク) ボランティア等の受け入れとその環境整備
- (ケ) 組織機関、施設等が有する機能の地域還元

「メゾ（地域）」については、以下の介入方法を参考にして、自己評価を行ってください。

- (ア) 社会福祉を目的とする事業の企画^{注1}
- (イ) 社会福祉に関する活動への住民の参加のための援助^{注2}
- (ウ) 社会福祉を目的とする事業に関する調査、普及、宣伝、連絡、調整および助成^{注3}
- (エ) 前に掲げる（ア）（イ）（ウ）の事業のほか、社会福祉を目的とする事業の健全な発達を図るために必要な事業^{注4}

注1 例) 権利擁護事業、介護保険事業、介護予防事業等

注2 例) 市民活動（小地域福祉活動、ボランティア）の促進・支援

注3 例) 関係機関・団体・個人とのネットワーク構築、連携強化

注4 例) 当事者の組織化・支援、福祉教育・啓発、制度・事業運営・サービス等の改善のための所属組織内外での取り組み

4 ソーシャルワークの実行・介入

ミ ク ロ	(1-4-1) サービス調整会議・ケースカンファレンス等による検討及び調整				
	(1-5-1) 介入の実施				
	(1-5-2) 介入の記録				
	(1-8) 困難事例・多問題事例への介入				
メ ソ (組 織)	(2-4-1) 組織内外での会議の企画・運営				
	(2-4-2) 職員間および関係部署や関係機関との合意形成および連携				
	(2-5-1) 取り組みの実施（企画の運営）とその記録				
	(2-5-2) 取り組みの記録				
メ ソ (地 域)	(3-4-1) 策定会議、連絡協議会、懇話会等による検討及び調整				
	(3-5-1) 地域福祉活動・事業の実施				
	(3-5-2) 地域福祉活動・事業の記録				

5 ソーシャルワークの実行・介入に基づいたモニタリング

ミクロ	(1-5-3) 継続的なアセスメントおよび変化に応じた修正				
メゾ (組織)	(2-5-3) 継続的な実施状況についての点検・評価とそれに応じた修正				
	(2-5-4) リーダーとしての役割遂行				
メゾ (地域)	(3-5-3) 継続的なアセスメントおよび変化に応じた修正				

6 ソーシャルワークの終結

ミクロ	(1-6-1) ケースカンファレンス等での検討				
	(1-6-2) 終結にむけての準備				
メゾ (組織)	(2-6-1) 会議等での検討				
	(2-6-2) 終結にむけての準備				
メゾ (地域)	(3-6-1) 会議等での検討				
	(3-6-2) 終結にむけての準備				

7 ソーシャルワークの事後評価（エヴァリエーション）等

ミクロ	(1-6-3) 終結後のフォローアップ				
	(1-6-4) 介入の結果についての評価等				
メゾ (組織)	(2-6-3) 終結後のフォローアップ				
	(2-6-4) 取組みの結果についての評価と報告				
メゾ (地域)	(3-6-3) 終結後のフォローアップ				
	(3-6-4) 地域福祉活動・事業の結果についての評価等				

8 制度・政策に関する働きかけ等

マクロ	(1-12) 個別レベルの課題をマクロレベルの課題へと位置づけてシステム変革				
	(2-14) 組織の理念・機能に関わる福祉政策・制度についての提言、システム改革への関与				
	(3-11) 地域・国家レベルでの保健医療福祉に関わる計画策定への参画				
	(3-12) クラス・アドボカシー (共通のニーズをもつ人々を代弁してソーシャルアクションを行い、制度・政策・事業・関係性などにおけるシステム変革を起こすこと)				

9 認定上級社会福祉士の質的基準に関する項目

共通	(1-7,2-7,3-7) ミクロ・メゾ・マクロに関わる業務に対する助言・指導/スーパービジョンを行う				
ミクロ	(1-9) アセスメントツール、計画表、契約書、記録フォームなどの開発・改善				
	(1-10) 特定の介入方法、アプローチについての評価				
	(1-11) より効果的な介入方法・アプローチなどの開発・普及				
メゾ (組織)	(2-8) 理念・基本方針の職員への周知および理念・基本方針を反映した組織運営				
	(2-9) 管理者およびチームリーダーの責任の明確化				
	(2-10) 費用対効果を踏まえた中長期計画（事業計画）策定				
	(2-11) 事業所等における税制、寄付金、公的助成制度、民間助成の活用				
	(2-12) 財務諸表に基づくと経営分析、適正な財務管理				
	(2-13) 経営状況の把握と分析および分析に基づく課題把握と改善への取り組み				
	(2-15) 職員の苦情対応手続き				
	(2-16) 業務分析と職務内容の規定				
	(2-17) 業務負担のマネジメント				
(2-18) 職員のメンタルヘルス対策					

メ ゾ （ 地 域 ）	(3-8) 事業（プログラム）評価（モニタリングと結果評価） と改善の取り組み				
	(3-9) 所属組織を超えて各種会議のリーダー/責任者とし ての役割遂行				
	(3-10) 地域福祉推進・連携のための懇談会、講演会、イベ ントへの参画				

表2 スーパービジョンを受けたいテーマ

【事前面談前】

受けたいテーマ	テーマ選定の理由
---------	----------

【事前面談後】

決定したテーマ	テーマ決定の理由
---------	----------

表3 事前面談で気づいたこと

--

表4 スーパービジョン契約の終了にあたっての自己評価

スーパービジョン契約の終了にあたっての自己評価（スーパービジョンの総括時に記入）
--